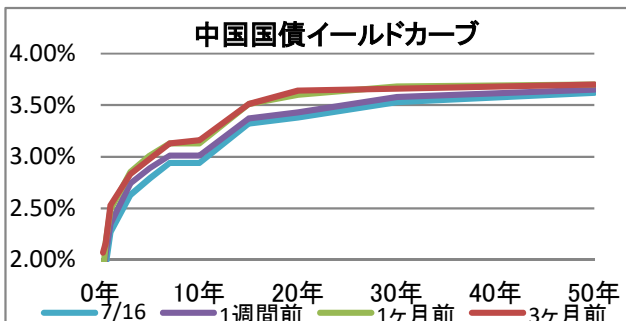
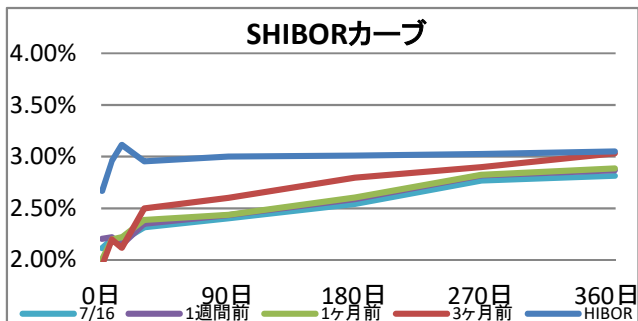


①市場概況

基準レート		2021/7/16	(前週末比)
人民元基準値	USD/CNY	6.4705	-0.0050
	JPY/CNY	5.8919	-0.0051
SHIBOR	3M	2.4040%	-0.0310%
国債利回り	10年	2.94%	-0.07%
上海総合指数		3,539.30	+15.21



(1) 概況

米国のCPI(6月)は13年ぶりの高水準となったものの、新型コロナウイルス変異種感染拡大による世界経済の先行き懸念やパウエルFRB議長の議会証言で金融緩和縮小懸念が後退したことから、世界的に株式市場の上値は重く、債券市場は堅調に推移する1週間となった。

中国金融市場では、預金準備率引き下げにより利下げ期待が高まっていたMLF金利は据え置かれたものの、その後の経済指標がやや軟調な内容だったことや、米国の金融緩和縮小への懸念が剥落したこともあって、株式市場は上値が重く、債券利回りは低下を続け、外為市場では小幅な値動きが続いた。

米国は新疆ウイグルに関連する事業に加え、米国事業者の香港での事業活動への警戒勧告を发出し、中国政府がこれに反発を強める事態となっており、両国間の対立は一段と厳しさを増す状況となっている。

中国では、排出権取引が全国レベルで開始されている。また、金融当局によるマネロンや証券市場での不正防止対応が一段と強化され、中国人民銀行はデジタル人民元白書を公開している。

(2) 金融市場調節

中国人民銀行は、リバースオペ期日500億元とMLF期日4,000億元に対し、預金準備率引き下げによる1兆元を放出に加え、新規リバースオペ100億元/日による合計500億元と新規MLF1,000億元(2.95%で据え置き)を実施している。

(3) 主な経済指標

・GDP(第2四半期)は、前年同期比+7.9%(第1四半期+18.3%)と、過去最高の伸びとなった全四半期比では減速しながら高水準を維持したが、回復を牽引していた製造業が半導体不足や外需減少を背景に大きく減速している。

・鉱工業生産(6月)は、前年比+8.3%(5月同+8.8%)と4ヶ月連続の低下。半導体不足による自動車や携帯電話に加えてインフラ関係の建設資材も停滞しているものの、製造ロボットや集積回路は高い伸びを維持している。

・小売売上(6月)は、前年比+12.1%(5月+12.4%)と3ヶ月連続の低下。飲食が前年の反動から3ヶ月連続の低下ながら高水準を維持し、商品販売も堅調に推移しているものの、耐久消費財は伸び悩み。

②資金市場

(1) 人民元資金市場

	SHIBOR	無担保資金	レポ	NCD AAA
ON	2.1150%	1.9500%	2.1200%	
1W	2.2010%	2.6000%	1.8000%	2.0500%
2W	2.1880%	2.2000%	7.0000%	2.0500%
1M	2.3180%	3.5000%	2.9000%	2.2300%
3M	2.4040%	3.8000%	2.4500%	2.3600%
6M	2.5430%			2.5600%
9M	2.7690%			2.7300%
12M	2.8140%	3.9500%		2.7600%

中国人民銀行による預金準備率引き下げによりMLF期日や納税資金需要の増加への不安はなく、MLF金利据え置きによる利下げ期待への影響も限定的で、ターム物は1ヶ月の2.4%前後での出合いを除き限定的。

NCDは、預金準備率引き下げに続く利下げへの期待から、長めの期間を中心に緩やかに金利水準が低下しており、ターム物の金利水準は、1ヶ月が2.25%、3ヶ月物は2.35%、6ヶ月が2.55%、1年が2.72%を中心に取引されている。

(2) 米ドル資金(本土内)

	BID	OFFER
ON	0.03%	0.04%
1W	0.05%	0.06%
1M	0.08%	0.09%
3M	0.20%	0.22%
6M	0.30%	0.35%
12M	0.45%	0.50%

資金余剰の状況が続いており、ターム物の金利水準も低下が進み、1ヶ月では0.08%、3ヶ月は0.20%での取引が中心となっている。

③人民元債券市場

	国債	地方債AAA	金融債AAA	社債AAA	社債AA
3M	1.84%	2.03%	2.37%	2.49%	2.97%
6M	1.95%	2.27%	2.55%	2.60%	3.08%
1Y	2.27%	2.31%	2.72%	2.72%	3.22%
3Y	2.63%	2.84%	3.02%	3.16%	3.84%
5Y	2.79%	3.02%	3.28%	3.40%	4.30%
10Y	2.94%	3.30%	3.66%	3.73%	4.66%

債券市場では、流動性を合理的な範囲で維持しつつ金利水準を引き下げるとの中国政府の金融緩和姿勢に支えられる格好となり、週初から10年国債利回りは3%を大きく下回る展開。MLF金利が維持されるとやや失望感も見られたが、緩和姿勢に変化はないとの見方から買い仕かりの展開が続いた。

イールドカーブは、全期間10bp前後低下する中で中期までがやや大きく下げたことから先週同様に小幅にステイプ化し、クレジットスプレッドは区々となり有意な変化は見られなかった。

④先物為替市場

	USD / CNY
1W	29.5 / 30.0
1M	137.5 / 138.0
3M	419.0 / 422.0
6M	818.0 / 820.0
9M	1192.0 / 1200.0
12M	1556.0 / 1557.0

対ドル基準レートは、6.4705と前週末比-50pipsのドル安元高、対円基準レートは5.8919と同-51pipsの円安元高と、狭いレンジ内での設定が続いた。国内市場でもドル高期待は強いものの、米中の景況感やインフレ見通しがいずれも弱含み予想となる中で、6.47台から緩やかかつ小幅な値動きで6.46台に低下している。

先物は、人民元金利の低下を主因に、スワップ幅は拡大し難い状況が続いており、1年物は1500台半ばでの取引が中心となっている。

⑤金利スワップ

	Quarterly 7d Repo A/365	Quarterly 3M SHIBOR A/365 A/360	Annually O-N SHIBOR A/365 A/360
3M	2.29%		2.08%
6M	2.32%	2.48%	2.07%
9M	2.34%	2.54%	2.09%
1Y	2.36%	2.60%	2.10%
3Y	2.57%	2.93%	2.33%
5Y	2.74%	3.18%	
7Y	2.87%	3.35%	
10Y	3.02%	3.53%	

スワップ金利は、債券利回りの一段の低下を受けて前週に続き全期間で金利水準が低下している。債券利回りとの金利差であるスワップスプレッドは、前週にスワップ金利が債券利回りに先行して低下していたことの反動からスワップ金利の低下が債券利回りの低下に比して小幅となったことから拡大に転じている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
 ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
 ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入